

こまちづか 小町塚

へいあんじだい おののこまち
平安時代に小野小町という大変美しい方がおられました。小町は、
みやこ きそく
都の貴族のあこがれのまどでありました。

しかし、小町もだんだん年を取ってくると、都の人たちもあまり
相手をしてくれなくなってしまうました。悲しくなった小町は都を
はなれて、たび
旅に出ることにしました。

小町は旅のと中で病気になってしまいました。小町は、おのてら
やくしどう
薬師堂にこもって病気がよくなるようにと一生けんめいに願いまし
ねが
たが、いっこうによくなりませんでした。この世のはかなさをかん
じ、小町はみすぎがわ
身をな
投げて死んでしまいました。

小野寺の人たちはこれをあわれんで、小町のお墓はかをつくりました。
それからこのお墓を、こまちづか
小町塚というようになったということです。